大分県の概要

沿　革

本県は、明治4年（1871年）の豊後小藩の廃藩置県とその後の統廃合を経て、同9年（1876年）豊前の下毛・宇佐郡を福岡県から編入し、現在の県域が確定しました。

市町村は、平成11年（1999年）の合併特例法の改正により合併が進み、令和5年度末現在、14市3町1村となっています。

地　勢

本県は、九州の北東部に位置し、北緯32度42分52秒～ 33度44分26秒、東経130度49分29秒～132度10分38秒にわたる地域を占め、総面積は6,341km^{2}で、東西128km、南北116kmに及んでいます。地質的には、臼杵市と熊本県八代市とを結ぶ地質構造線によって南北に分けられ、北部は火山岩が多く、南部は古生層や中央層が広く分布し、石灰岩が多く見られます。

この複雑な地層が、多様な地形と豊かな自然を生み出しています。「九州の屋根」と呼ばれるくじゅう山群をはじめ、由布・鶴見、祖母・傾、英彦の山々が連なり、県土の7割が林野で占められています。

これらの山系から流れ出る水流は大分川、大野川、番匠川、山国川をはじめ多くの河川となって豊富な水資源をもたらしています。また、くじゅう山群の麓には、約4,000haにも及ぶ久住高原や飯田高原が雄大な景観を呈して広がっています。さらに、県内を西日本火山帯が走っており、いたるところに温泉が湧出しています。

海岸線は、総延長774kmで、北部は遠浅海岸、中央部は波穏やかな別府湾、南部はリアス海岸と変化に富み、豊富な水産資源にも恵まれています。

県旗

大分県の「大」を3つ組み合わせ、それぞれ信義・勤労・友愛を象徴し、その型の飛鳥型として県の飛躍発展を、また3つを円形にして円満・平和を、組み合わせて協力を意味し、全体の旭日型で、県の伸びゆく勢いを表しています。
紋章の色は赤で、県民の真心を、旗の白地は平和と平等を示しています。
この県旗は昭和31年7月24日に制定されました。

県鳥（メジロ）

昭和41年県民の鳥をひろく一般から公募し、その結果にもとづいて同年2月1日に、メジロを県民の鳥とすることに決定しました。
メジロは燕雀目メジロ科で、目のまわりが白い輪になっています。
大分県のメジロは豊後メジロとして全国的に有名で、県内全域に生息しています。

県花・県木（豊後梅）

豊後梅は、NHKが第29回放送記念日に“郷土の花”として選定（昭和29年4月1日）、その後大分国体実行委員会において県の花として国体マークに使用し、以後県花として認められています。
県木については、昭和41年8月16日に豊後梅を県木として制定しました。